

**平成 28 年度やんばる観光連携推進事業  
実施報告書**

**平成 29 年3月  
北部広域市町村圏事務組合**



# 目次

<b>序章 事業の概要</b> .....	1
1. 事業の目的.....	1
2. 業務の全体像.....	2
3. 業務の実施体制.....	3
<b>第1章 連携の仕組みづくり</b> .....	4
1-1. 市町村副長・観光担当課長・観光協会等関係団体代表合同会議の開催.....	4
(1) 目的.....	4
(2) 実施概要.....	4
(3) 成果と課題.....	6
1-2. 連携プロジェクトの創出.....	7
(1) 目的.....	7
(2) 実施概要.....	9
(3) 成果と課題.....	50
<b>第2章 情報集約・発信</b> .....	51
2-1. 情報サイトの充実強化.....	51
(1) 目的.....	51
(2) 実施概要.....	51
(3) 成果と課題.....	60
2-2. 情報拠点の充実強化.....	61
(1) 目的.....	61
(2) 実施概要.....	61
(3) 成果と課題.....	72
<b>第3章 観光プロモーション</b> .....	73
3-1. 観光フェア出展.....	73
(1) 目的.....	73
(2) 実施概要.....	73
(3) 成果と課題.....	84
3-2. 農商工連携フェア「やんばるほおばるカーニバル」の開催.....	85
(1) 目的.....	85
(2) 実施概要.....	85
(3) 成果と課題.....	93
<b>第4章 経済効果分析</b> .....	94
4-1. 調査の目的.....	94
4-2. 調査概要.....	94
(1) 観光消費額の推計.....	94
(2) 産業連関表による経済効果分析.....	94
(3) WEB調査による「やんばる」の認知度調査.....	94
4-3. 調査結果.....	95

(1) 平成27年度沖縄県観光実態調査による北部地域入域客の分析 .....	95
(2) ウェブ調査による北部観光実態調査の結果分析 .....	101
(3) 観光消費額の推計と北部地域における経済効果分析 .....	115
<b>第5章 事業効果と今後の展開 .....</b>	<b>128</b>
<b>5-1. 今年度の成果と課題 .....</b>	<b>128</b>
<b>5-2. 今後の展開 .....</b>	<b>131</b>
(1) 観光を取り巻く動向 .....	131
(2) 今後の課題 .....	133
(3) 今後の取組み方針 .....	134
(4) 今後の展開 .....	135
<b>平成28年度 委員名簿 .....</b>	<b>137</b>

# 序章 事業の概要

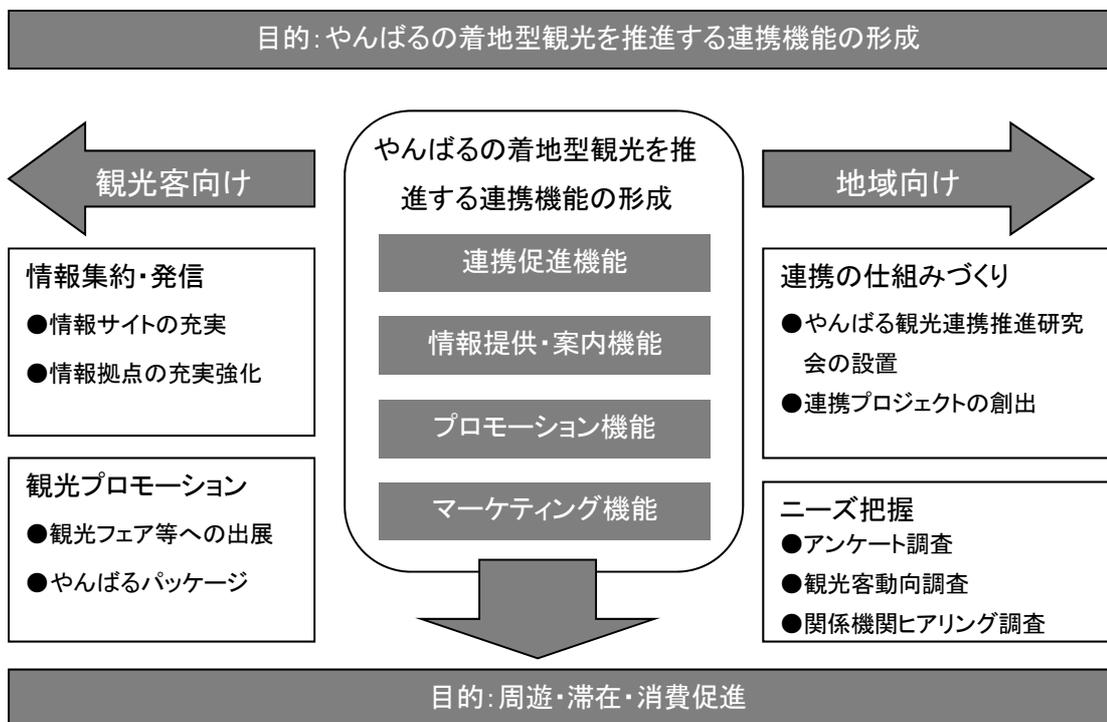
## 1. 事業の目的

やんばる地域には、美ら海水族館や西海岸リゾート施設など集客力のある観光施設等がある一方で、周辺地域には誘導できていない現状がある。やんばる地域の多様で魅力ある潜在的な観光資源は、観光客への認知度は低く、観光客の動向が偏っている状況にある。

本事業では、観光連携体制を構築することにより、観光客の「周遊・滞在・消費」の促進を目標として進めてきた。

目標に向けては、地域の資源を活かした受地主導の着地型観光商品をつくり、観光客向けの情報集約発信、観光プロモーション、連携の仕組みづくり、ニーズ把握調査の4つを柱に広域的に取組み、それを推進する連携機能の形成を目的とする。

図表 本事業「やんばる観光連携推進事業」における目標



周遊促進効果の目標 ⇒ やんばる地域に訪れる観光客が増加

滞在促進効果の目標 ⇒ 北部での滞在時間が延長

消費促進効果の目標 ⇒ 北部での消費促進

## 2. 業務の全体像

本事業は、やんばる観光の連携体制の創出を目的として平成 24 年度よりスタートした。

平成 24 年度は、連携のあり方についての議論を中心として課題と目標、将来像を示してきた。

平成 25 年度は引き続き検討を続けながら、連携の仕組みづくり、情報集約・発信、観光プロモーションについては仕組みづくりの実証を一部進めながら、ニーズに関する調査も行ってきた。

平成 26 年度は、やんばる観光連携推進研究会を設けるとともに、東海岸をモデルとした連携プロジェクトや情報集約発信、観光プロモーションについてそれぞれプロジェクトチームを作って実践・運用に移してきた。ニーズ調査については観光動態調査、インバウンド調査などを行った。

平成 27 年度は、やんばるを5つのエリアに分け、それぞれの特徴を活かした連携プロジェクトを行うとともに、情報集約・発信、観光プロモーションについては、ニーズ調査を参考に戦略的な運用を図ってきた。また、これらの仕組みを継続するための連携体制について検討した。

平成 28 年度は、5つのエリアプロジェクトを事業化に向けた取組みとしていくとともに、情報サイトや案内コーナーの自立に向けた検証、サポーター拡大、観光プロモーションとして海外向け、農商工連携の取組みを行った。ニーズ把握については、地域の大学と連携してやんばる地域経済における観光産業の位置づけについての分析を行った。

図表 事業の全体像

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
WG、懇談会、協議会	WG、懇談会、協議会、連絡会、ワークショップ	協議会(副長会)	協議会(副長会)	合同会議(副長会・課長等)
<b>○課題の抽出</b> ・連携の場 ・情報共有 ・情報発信 ・ニーズ把握  <b>○目標</b> 連携により・・ ・滞在促進 ・消費拡大  <b>○将来像</b> やんばるの観光の多様性と個性がもつ奥深い魅力が広がっていく観光地へ	<b>1連携の仕組みづくり</b> ・コーディネーター配置 ・ワークショップの開催 ・連携プロジェクトの検討	<b>1連携の仕組みづくり</b> ・研究会の設置 ・東海岸連携プロジェクト実施	<b>1連携の仕組みづくり</b> ・研究会の開催 ・連携プロジェクト実施(5エリア)	<b>1連携の仕組みづくり</b> ①合同会議の開催 ■実証事業の継続、準備室の設置 ②連携プロジェクトの創出 ■プロジェクトの事業化に向けた支援
	<b>2情報集約・発信</b> ・情報サイト制作 ・情報拠点の設置	<b>2情報集約・発信</b> ・情報サイトの充実強化 ・情報拠点の充実強化 ・ガイドマップ製作(多言語)	<b>2情報集約・発信</b> ・情報サイトの充実強化 ・情報拠点の充実強化 ・多言語ツール製作	<b>2情報集約・発信</b> ①情報サイトの充実強化 ■自立運営の検証、サポーター拡大 ②情報拠点の充実強化 ■自立運営の検証、サポーター拡大
	<b>3観光プロモーション</b> ・観光フェア出展 「やんばる」全体の売込	<b>3観光プロモーション</b> ・発地側、着地側での観光フェア出展 ・スタンプラリー開催 ・やんばるパッケージ制作 ・やんばる観光イメージ映像制作	<b>3観光プロモーション</b> ・観光フェア出展(東京) ・スタンプラリー開催 ・やんばるバッグ制作	<b>3観光プロモーション</b> ①農商工連携フェア開催 ■農商工と連携したやんばるイベント開催 ②観光キャラバン ■連携プロジェクトのPR ③インバウンド向けプロモーション ■海外市場向けのフェア出展
	<b>4ニーズ把握</b> ・「やんばる」のイメージやニーズ把握	<b>4ニーズ把握</b> ・観光客動態調査(夏季) ・インバウンドニーズ調査	<b>4ニーズ把握</b> ・観光客動態調査(通年)	<b>4ニーズ把握</b> ①地域大学と連携した経済効果分析 ■やんばる地域の観光産業に関する経済効果分析 ②H29 年度以降の展開

### 3. 業務の実施体制

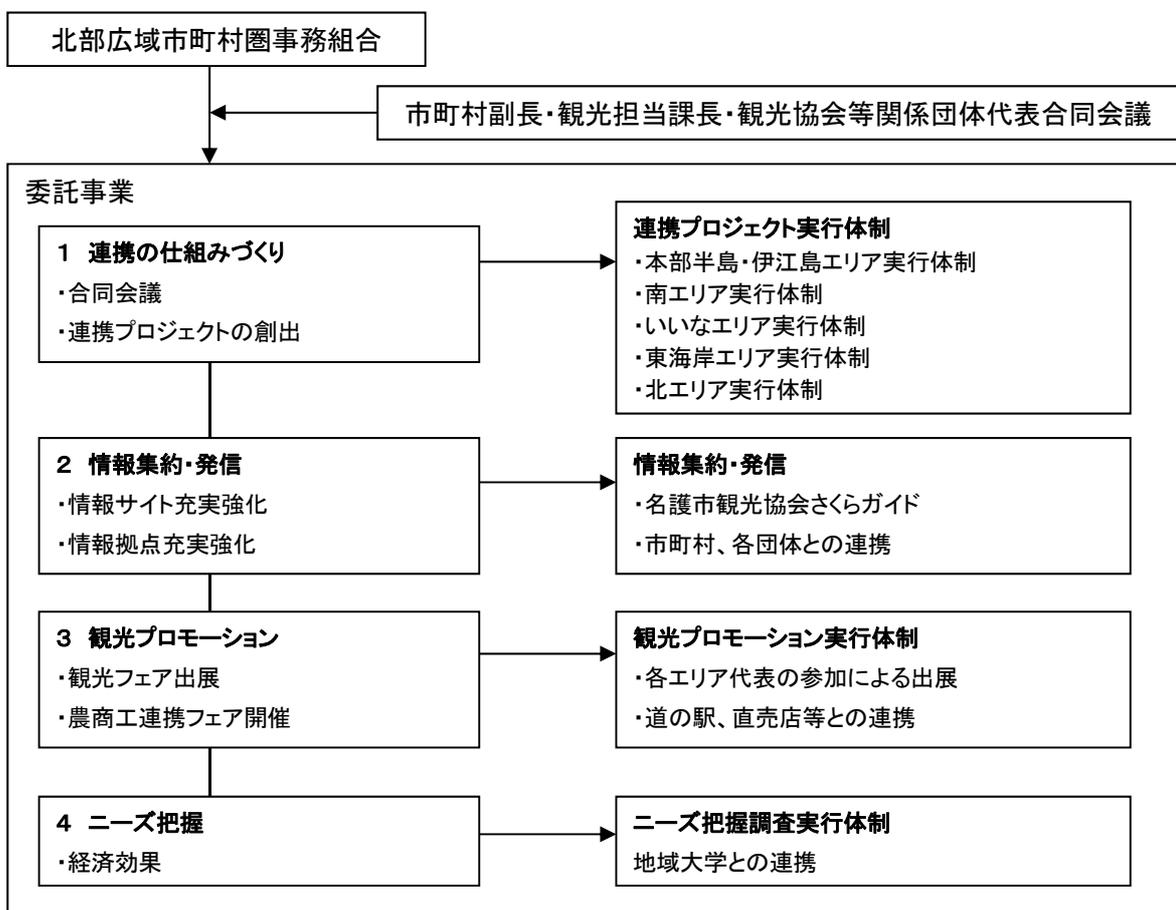
本事業の実施体制は、まず北部広域市町村圏事務組合を事業主体とする。

平成 24～25 年度は「協議会」、「懇談会」、5 つの「ワーキンググループ会議」、「ワークショップ」などを設けて連携に関する検討を進めてきた。

平成 26 年度からは「協議会」を意思決定機関としつつ、各市町村の観光担当課、観光団体等で構成する「研究会」を設けて連携に関する検討を続けるとともに、各実証事業では関係する観光団体等によるプロジェクトチームを設け実践してきた。平成 27 年度も引き続き研究会、協議会を設けて事業を進めた。

今年度は、「(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会」の設立に向け、北部広域市町村圏事務組合の構成市町村の副長、観光担当課長、観光協会並びに関係団体をメンバーとする会議を実施した。

図表 平成 28 年度実施体制



※それぞれの会議の名称を以下のようにつ。

- ・やんばる観光連携推進事業懇談会（有識者、関係団体の長で構成、H24,25 年度開催）以下「懇談会」という。
- ・やんばる観光連携推進ワーキング・グループ（テーマ（①交通サイン②イベント・観光 PR③花と緑④スポーツコンベンション⑤観光人材育成）に応じた知識経験者等で構成、H24,25 年度開催）以下「WG」という。
- ・やんばる観光連携推進事業協議会（12 市町村副長で構成、H24～27 年度開催）以下「協議会」という。
- ・やんばる観光連携推進研究会（市町村観光担当課及び観光関連団体で構成、H26,27 年度開催）以下「研究会」という。

# 第1章 連携の仕組みづくり

## 1-1. 市町村副長・観光担当課長・観光協会等関係団体代表合同会議の開催

### (1)目的

本事業は、北部広域全体の広域的な連携体制を構築することを目的としている。

平成 24 年度は WG、懇談会、協議会を設置し、平成 25 年度からは市町村観光担当者の連絡会を設けるとともに、特定メンバーのみならず多くの観光関係者の意見を聴取できるよう、ワークショップを開催してきた。これまで各会議において、連携に関するアイデアや施策が出され、WG、懇談会は当初の目的を果たしたものと平成 25 年度で終了した。

平成 26 年度からは新たに「やんばる観光連携推進研究会」(以下、「研究会」という)を設置し、連携体制について検討を進めてきた。平成 27 年度は、引き続き研究会を開催し、DMO(※)専門家の招聘などを通して連携体制の具体化を図った。

また、平成 28 年度は、「(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会」(以下、「連絡協議会」という)の設置について合意形成を図るため、構成市町村の副長ならびに観光担当課長、観光協会及び関係団体の合同会議を行った。

※DMO(Destination Marketing/Management Organization の略)：

観光地域づくりの舵取り役として、関係者と連携し、①関係者の合意形成、②マーケティングに基づく戦略策定、③関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関するマネジメントを行う法人

### (2)実施概要

#### ①参加団体

今年度は、これまで開催してきた協議会(市町村副長)並びに観光担当課長、観光協会並びに関係団体により、やんばる観光連携推進事業に係る副長・観光担当課長並びに観光協会等関係団体代表合同会議(以下「合同会議」という)を行った。

市町村	副長	担当部局	観光協会・観光関係団体
名護市	副市長 (座長)	商工観光課	公益財団法人名護市観光協会
		羽地支所	一般社団法人羽地ネットワーク
国頭村	副村長	企画商工観光課	国頭村観光物産(株)
大宜味村	副村長	企画観光課	NPO法人おおぎみまるごとツーリズム協会
東村	副村長	企画観光課	NPO法人東村観光推進協議会
今帰仁村	副村長	経済課	一般社団法人今帰仁村観光協会
本部町	副町長	商工観光課	一般社団法人本部町観光協会
恩納村	副村長	商工観光課	一般社団法人恩納村観光協会
宜野座村	副村長	観光商工課	一般社団法人宜野座村観光協会
金武町	副町長	産業振興課	一般社団法人金武町観光協会
伊江村	副村長	観光商工課	一般社団法人伊江島観光協会
伊平屋村	副村長	総合推進室	伊平屋島観光協会
伊是名村	副村長	商工観光課	一般社団法人いぜな島観光協会

## ②開催経緯

合同会議では、平成28年度に進めているエリア別の連携プロジェクト、情報集約・発信、プロモーション等の進捗状況を共有しながら、「やんばる観光市町村等連絡協議会」の設立について検討を行った。

第1回目終了後は、観光庁より「(仮称)日本版DMOについて」の説明があった。

表 やんばる観光連携推進事業に係る副長・観光担当課長並びに観光協会等関係団体代表合同会議

開催経緯	開催概要
<b>【第1回合同会議】</b> 日時:平成28年11月24日(木) 11:00~12:30 場所:北部会館 会議室 3F	参加対象:副長・観光担当課長並びに観光協会等関係団体代表 説明・報告:①事業概要説明 ②進捗状況報告 議 題:「やんばる観光市町村等連絡協議会」について ①協議会設立イメージについて ②協議会設置要綱について 開催方法:事務局説明及び意見交換 ※会議終了後「(仮称)日本版DMOについて」観光庁より説明
<b>【第2回合同会議】</b> 日時:平成29年1月31日(火) 11:00~12:30 場所:北部会館 会議室 3F	参加対象:上に同じ 説明・報告:①進捗状況報告 議 題:「H29年度以降の展開」について ①協議会設立と事業内容について(資料2) ②協議会設置要綱について(資料3) 開催方法:事務局説明及び意見交換
<b>【第3回合同会議】</b> 日時:平成29年3月3日(金) 11:00~12:00 場所:名桜大学 北部生涯学習推進センター 会議室	参加対象:上に同じ 説明・報告:①進捗状況報告 議 題:「H29年度以降の展開」について ①平成29年度以降の計画について(資料2) ②協議会設置要綱(案)について(資料3) 開催方法:事務局説明及び意見交換 ※会議終了後に、内閣府・観光庁・沖縄県より感想・アドバイス等



第1回合同会議



第1回合同会議  
(観光庁による(仮称)日本版DMO説明)



第2回合同会議



第3回合同会議

### (3)成果と課題

#### ①事業の成果

- 「(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会」(以下、「連絡協議会」という。)について12市町村の観光行政、観光団体が共通認識を持ち、設置に向けて準備会を発足することとなった。
- 今後も連絡協議会により、エリアの取組みを支援するとともに、情報発信、プロモーション等、やんばる地域全体で連携してPRを図ることとなった。

#### ②今後の課題

- 連絡協議会準備会により、連絡協議会の設置に向けて、設置目的、役割、事務局業務、市町村や観光協会(その他団体)の役割分担、エリアとの関係性などを明確にしていく必要がある。
- 「やんばる地域」は継続的にPRを図っていく必要があり、WEBサイト、案内コーナーなどについて継続しながら、その効果について追跡調査していく必要がある。
- これまでの調査で得られた観光ニーズに応じた対策を施していく必要がある。
- 連絡協議会の運営財源については、市町村の財政負担を伴わない自立的な運営を図ることが求められている。これまでに行った実証事業について、収益の仕組みを実践しながら財源を生み出す必要がある。
- 国や県、沖縄観光コンベンションビューロー、その他関係団体との協力体制を作っていく必要がある。
- 国が進めるDMOに関する研究、その他支援制度などの活用も検討しながら、財源の確保や収益の仕組みづくりを図っていく必要がある。
- 現在は連携プロジェクトチームとしてエリアを括っているが、今後はエリアを跨いでの連携も柔軟に検討していく。

## 1-2. 連携プロジェクトの創出

### (1)目的

沖縄観光はリピーターが8割を超えており、フリープランや個人旅行の占める割合が増加している。平成24年度から平成25年度の検討では、従来通りのメジャーな観光施設の周遊型観光ではなく、やんばる地域の多様な魅力を活かした着地型観光メニューの造成などが提案されてきた。

平成26年度においては、東海岸地域の5市町村(名護市、国頭村、東村、宜野座村、金武町)を先行モデルとして関係団体で東海岸プロジェクトチームを組成し、「大人の民泊」をテーマとしたモニターツアー受入れを実施してきた。これと並行して行われた平成26年度の研究会では、やんばるの観光連携体制づくりは、すぐに12市町村全体の連携を考えるのではなく、エリア別から進めるという方向性が示され、各エリアでの連携プロジェクトを企画した。

平成27年度は、平成26年度に企画した各エリアの連携プロジェクトを実証事業として行った。連携プロジェクトの実施は、市町村の枠を越えた広域連携プロジェクトに取り組むことで、相互理解や協力体制の醸成を図るとともに、連携プロジェクトを実際に継続的な取組みとしていくことを目的として実施した。

平成28年度は、平成27年度より行ってきた各エリアのプロジェクトチームに代表窓口団体を設定し、企画会議を行いながら、プロジェクトのブラッシュアップと事業化に向けた広告宣伝、専門家招聘、旅行社訪問やPRイベント出展などの営業活動を行った。

表 連携プロジェクトの創出

実施目的	<ul style="list-style-type: none"><li>・エリア別連携体制の醸成</li><li>・エリア別連携プロジェクトの事業化</li><li>・エリア連携体制の自立化</li></ul>
実施時期	各エリアの企画に基づく (※次ページ以降各エリアの実施内容参照)
実施主体	各エリアの連携プロジェクトチーム
対象	<ul style="list-style-type: none"><li>① 本部半島・伊江島エリア (名護市、本部町、今帰仁村、伊江村)</li><li>② 南エリア (恩納村、宜野座村、金武町)</li><li>③ いいなエリア (伊是名村、伊平屋村、今帰仁村)</li><li>④ 東海岸エリア (名護市、国頭村、東村、宜野座村、金武町)</li><li>⑤ 北エリア (国頭村、大宜味村、東村)</li></ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>①プロジェクト事業化推進のための広告宣伝</li><li>②専門家招聘</li><li>③エリア代表による営業活動 (旅行社周り、PRイベント出展等)</li><li>④受入等</li></ul> ※各エリアプロジェクトのテーマに応じて実施



## (2)実施概要

### 1)本部半島・伊江島エリア『アウトドアスポーツ推進プロジェクト』

#### ①プロジェクト概要(企画概要)

連携プロジェクト名称	アウトドアスポーツ推進プロジェクト	
関連市町村	名護市、本部町、今帰仁村、伊江村	
市町村／関連団体名	名護市、本部町、今帰仁村、伊江村、公益財団法人名護市観光協会、一般社団法人本部町観光協会、一般社団法人今帰仁村観光協会、一般社団法人伊江島観光協会、一般社団法人羽地ネットワーク	
代表窓口／実施体制	一般社団法人羽地ネットワーク	
現状の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア受入窓口の位置付けの明確化</li> <li>・地元業者の受入れ体制の整備、合意形成・フィールド利用の共通認識</li> <li>・ツアーの商品化、販売体制、販路の確保</li> </ul>	
連携プロジェクト	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度に実施したモニターツアーの結果を活かし、下記の①～⑥に取組んだ。</li> <li>①ジャパンエコトラック(JET)登録</li> <li>②モンベルフレンドエリア登録</li> <li>③PRツール制作⇒JETロゴ入り認定ルートマップ</li> <li>④フレンドフェア出展</li> <li>⑤専門家招聘による説明会(モンベル社)</li> <li>⑥モンベル SEA TO SUMMIT ツアー受入(実施 2/24～26)</li> </ul>
	実施の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー造成、販売の仕組みづくり</li> <li>・受入事務局の確立と受入事業者の会員登録</li> </ul>
検証内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンペーンツアーによる誘客効果</li> <li>・受入体制の整備</li> <li>・ツアー内容やフィールド利活用に関する課題等の抽出</li> </ul>	
取組み後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会組織により運営(DMOを検討)</li> <li>・受入窓口設置、継続可能な受入事業者の会員登録制度</li> <li>・アウトドアメーカーとの提携</li> <li>・航空会社、メディア、旅行社とのタイアップによる販売</li> <li>・ガイド育成</li> </ul>	

## ②企画会議の開催経緯

### 企画会議(1回目)

日時：平成28年10月17日(月) 10:00～11:30

場所：本部町役場

参加：名護市商工観光課、本部町商工観光課、今帰仁村経済課、伊江村観光商工課、名護市観光協会、羽地ネットワーク、今帰仁村観光協会、伊江島観光協会、北部市町村圏事務組合、(株)国建

内容：①エリア連携体制及び代表窓口の設置

- ・一般社団法人羽地ネットワークに決定

②エリア別連携プロジェクトの実施について

③ジャパンエコトラック、フレンドエリアの登録について

### 企画会議(2回目) 第1回専門家説明会

日時：平成28年11月29日(火) 14:00～16:00

場所：北部会館 3F会議室

参加：名護市商工観光課、本部町商工観光課、今帰仁村経済課、伊江村観光商工課、名護市観光協会、羽地ネットワーク、今帰仁村観光協会、伊江島観光協会、株式会社モンベル、北部市町村圏事務組合、(株)国建

内容：(企画会議)

①今年度の実施内容とスケジュール

②フレンドフェア大阪出展報告

(専門家説明会)

(株)モンベル 広報部 部長代理 佐藤和志氏

①モンベルについて

②フレンドエリアについて

③ジャパンエコトラックについて

④組織・受入体制

⑤モンベルアウトドアチャレンジツアーについて



企画会議



専門家による説明(モンベル社 佐藤和志氏)

### 企画会議(3回目) 第2回専門家説明会

日時：平成 28 年 12 月 21 日（水） 14:00～16:00

場所：北部会館 3F 会議室

参加：名護市商工観光課、本部町商工観光課、今帰仁村経済課、伊江村観光商工課、名護市観光協会、羽地ネットワーク、今帰仁村観光協会、伊江島観光協会、株式会社モンベル、北部市町村圏事務組合、(株)国建

内容：(企画会議)

①広域連携事業の取組みについて

②2月開催のツアーについて

(専門家説明会)

(株)モンベル 広報部 部長代理 佐藤和志氏

参加：受入協力事業者 30 団体 (37 名)

①ジャパンエコトラックについて

②SEA TO SUMMIT 大会について

③2月開催予定の実施コースの概要

④今後の取組み (県内・県外・大会)

⑤質疑・意見交換



広域事業概要の説明



専門家による説明(モンベル社 佐藤和志氏)

### 企画会議(4回目) 第3回専門家説明

日時：平成 29 年 2 月 27 日（水） 10:00～12:00

場所：名護市羽地支所

参加：名護市商工観光課、本部町商工観光課、今帰仁村経済課、伊江村観光商工課、名護市観光協会、羽地ネットワーク、今帰仁村観光協会、伊江島観光協会、(株)国建

内容：(企画会議)

①モンベル SEA TO SUMMIT ツアーの振り返り (実施 2/24～26)

(専門家説明会)

(株)モンベル 広報部 部長代理 佐藤和志氏、設楽文昭氏

①SEA TO SUMMIT 大会の可能性について

③2月開催予定の実施コースの概要

### ③4市町村連携体制

#### (連携体制図)

4市町村が連携体制を築き、代表団体及び総合窓口として一般社団法人羽地ネットワークがとりまとめを行った。

図 連絡体制図

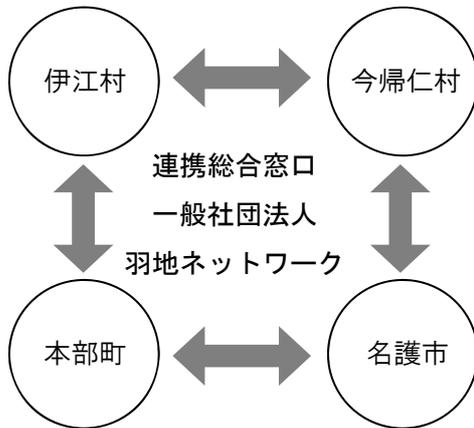


表 連携町村関連団体名

名護市	名護市商工観光課、羽地支所
	(一社)羽地ネットワーク
	(公財)名護市観光協会
本部町	本部町商工観光課
	(一社)本部町観光協会
今帰仁村	今帰仁村経済課
	(一社)今帰仁村観光協会
伊江村	伊江村商工観光課
	(一社)伊江島観光協会

#### ④取組み内容

##### a. ジャパンエコトラック（JET）登録

- ジャパンエコトラックとは、2009年より始まった環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」のコンセプトである「カヌー・自転車・トレッキングといった人力による移動手段で自然を体感する」をもとに、365日いつでも、自然を体感し、地域の歴史や文化を味わい、人々との交流をはかりながら、人力で移動する新しい旅のスタイルとして提唱された。
- 「ジャパンエコトラック推進協議会」(代表理事:養老孟司 東京大学 名誉教授)が登録地域と連携し、それぞれの特性を活かした旅のルートを国内外に広く発信し旅行者の来訪を促進することで、地域の活性化と自然環境の保全に寄与する。
- 2015年春に鳥取県の第1号エリア「境港・皆生・大山」を皮切りに、豊かな日本の自然を体験できるジャパンエコトラックのルートとして現在全国に6エリアが登録されている。
- 本部半島・伊江島エリアは、「やんばる本部半島・伊江島(名護・今帰仁・本部・伊江)」として、全国で6番目の登録となった。



公式ロゴマーク

 <p>境港・皆生・大山（鳥取県）</p> <p>バリエーション豊かな大山中海の3ルート</p> <p><a href="#">MORE INFO</a></p>	 <p>由良川・大江山（京都府）</p> <p>「海の京都」「森の京都」を楽しむ5ルート</p> <p><a href="#">MORE INFO</a></p>	 <p>信越自然郷（長野県・新潟県）</p> <p>山岳高原から始まる新たな旅のスタイル</p> <p><a href="#">MORE INFO</a></p>
 <p>山形 飯豊（山形県）</p> <p>「霊峰飯豊山」と「日本の原風景」を巡る</p> <p><a href="#">MORE INFO</a></p>	 <p>びわ湖・伊吹山（滋賀県）</p> <p>水辺の暮らしと戦国の記憶にふれる旅</p> <p><a href="#">MORE INFO</a></p>	 <p>やんばる本部半島・伊江島（沖縄県）</p> <p>太陽と海と緑の旅</p> <p><a href="#">MORE INFO</a></p>



「SEA TO SUMMIT」が環境省 グッドライフアワード受賞  
 ジャパンエコトラックのコンセプトの元となった環境スポーツイベント  
 「SEA TO SUMMIT」が、第3回 環境省 グッドライフアワード 環境大臣賞  
 グッドライフ特別賞を受賞いたしました。



## b. モンベルフレンドエリア登録

- モンベルフレンドエリアとは、アウトドアに関心の高いモンベルクラブ会員約74万人(2017.3.15現在)に対し、モンベル社が登録エリアのさまざまな情報、優待サービス等の告知を行うサービス。
- ウェブやメールでの情報発信だけでなく、モンベル直営店でのパンフレット設置や、モンベル主催の会員向けイベントへの出展など、モンベルクラブ会員を直接の顧客(リピーター)としての仕組みである。
- 1年間を通じて様々な告知ツールを利用したプロモーションが可能である。
- 現在、全国に82箇所がフレンドエリアに登録している。沖縄県内からは、「やんばる本部半島・伊江島」と「慶良間諸島 座間味村」が登録している。

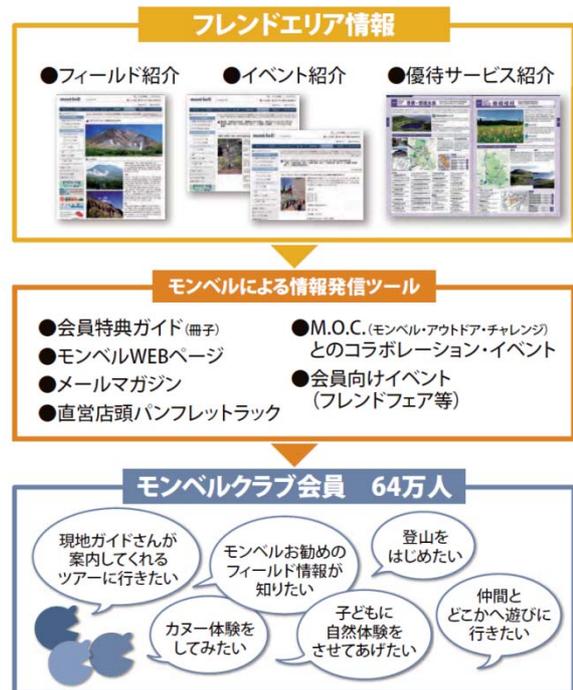
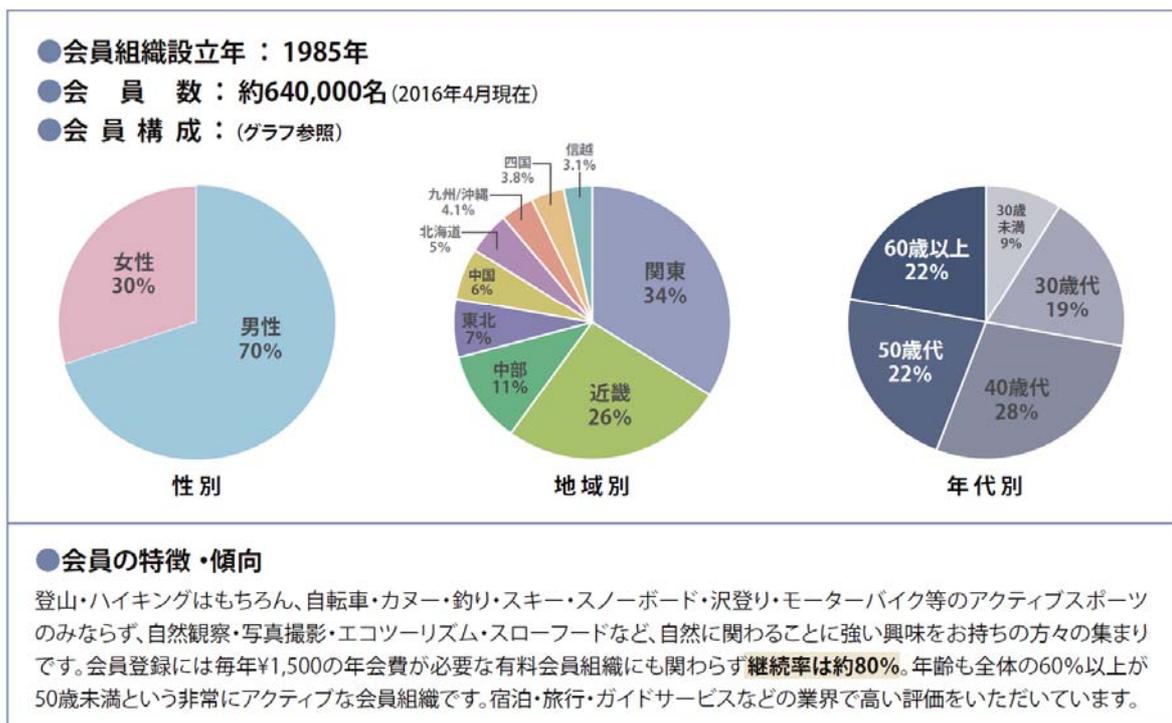


図 モンベルクラブ会員の概要

## ■モンベルクラブ概要



資料：専門家説明会配布資料（モンベル社提供）より

c. PR ツール製作⇒JET ロゴ入り認定ルートマップ

- ・ ジャパンエコトラックへの登録により、全国共通デザインの認定ルートマップを製作した。
- ・ 共通デザインにすることで、旅行者の視認性が高まることや、「ジャパンエコトラック」ブランドの総合力をアピールできる。
- ・ 最も大きなメリットは、地域内ではなく、全国展開しているモンベルストアへの設置ができ、広くアウトドアツーリズムファン層への訴求が可能となる。
- ・ 今回は、全国に展開するモンベルストア 112 店舗に 100 部ずつの 11,200 部を配布した。

写真 ジャパンエコトラック認定ルートマップ

6 やんばる本部半島・伊江島 (名護・今帰仁・本部・伊江)

Information

観光協会の情報

- 名護市観光協会 ☎0980-53-7755
- 羽地ネットワーク(名護市) ☎0980-43-6821
- 今帰仁村観光協会 ☎0980-56-1057
- 本部町観光協会 ☎0980-47-9641
- 伊江島観光協会 ☎0980-49-3519

緊急連絡先

救急センター

- 沖縄県立北部病院 ☎0980-52-2719
- 北部地区医師会病院(救急センター) ☎0980-54-1111
- 今帰仁診療所 ☎0980-56-3581
- 伊江村立診療所 ☎0980-49-2054

タクシー会社

- 名護共同無線 ☎0980-52-3333(名護市)
- 名護タクシー ☎0980-52-3335(名護市)
- 北部観光タクシー ☎0980-53-1138(名護市)
- 大地自動車交通 ☎0980-52-2446(名護市)
- 丸全交通 ☎0980-52-5555(名護市)
- 沖縄個人タクシー名護支部 ☎0980-53-3333(名護市)
- 本部サンシー交通 ☎0980-48-3433(本部町)
- 北屋タクシー ☎0980-48-3355(本部町)
- 本部タクシー ☎0980-47-5555(本部町)
- 北部観光タクシー ☎0980-56-2308(伊江島)
- 三笠営業所 ☎0980-49-2105(伊江島)

事故が発生した際の対応

まずは「負傷者」と「安全確保」

- 負傷者がいる場合は何れも先に救護し、119番に連絡する。
- 小さな事故であっても、必ず「警察官」に来てもらって調書を書いてもらう。

119番(救急) 110番(警察) 118番(海上)

2017年2月

発行：平成28年度やんばる観光連携推進事業 北部広域市町村圏事務組合 ☎0980-52-7049

JAPAN ECO TRACK

やんばる本部半島・伊江島 沖縄県 (名護・今帰仁・本部・伊江)

YANBARU MOTOBU PENINSULA & IE ISLAND (NAGO NAKIJIN MOTOBU IE)

全4ルート 距離計

TREKKING 8.6 Km

全4ルート 距離計

BIKE 136.6 Km

全3ルート 距離計

KAYAK 17.3 Km

太陽と海と緑の旅

2017年2月

発行：平成28年度やんばる観光連携推進事業 北部広域市町村圏事務組合 ☎0980-52-7049

ジャパンエコトラック認定 ルートマップ 第6号エリア

d. フレンドフェア出展

- ・ フレンドエリアへの登録により、モンベル会員向けのイベント「モンベルフレンドフェア」への出展が可能である。(年間2回の開催)
- ・ 平成 28 年 11 月 5 日(土)、6 日(日)に、大阪で開催された「フレンドフェア大阪 2016」に「本部半島・伊江島エリア」として出展した。

■モンベルクラブ フレンドフェア概要

日程 : 平成 28 年 11 月 5 日 (土) ~ 6 日 (日) (※搬入 11 月 4 日)

場所 : インテックス大阪 1・2 号館 大阪市住之江区南港北 1-5-102

ブース : 出展団体ブース「本部半島・伊江島エリア」

内容 : 本部半島・伊江島エリアの PR (説明、パンフレット配布)、映像、アンケート実施

## ■参加者及び行程

一般社団法人伊江島観光協会(1名)、一般社団法人本部町観光協会(1名)、事務局(1名)

## ■結果概要

### 【モンベル発表】

-----2016年11月フレンドフェア 大阪 来場者数-----

2016年11月5日：5,800 名様

2016年11月6日：4,600 名様

合計：10,400 名様

ご出展団体：72 団体様

### 【本部半島・伊江島ブース】

フィールドガイド配布数 約 500 部

各市町村パンフレット 各 100 部

アンケート回収数 92 票



本部半島・伊江島エリアブース



コース説明等



自転車等の展示



アウトドア用品の展示

e. モンベル SEA TO SUMMIT ツアー受入（実施 2/24～26）

- やんばる観光連携推進事業では、平成 27 年度に本部半島・伊江島エリアでモンベル社の協力によりモニターツアーを行った。その結果をふまえながら、今年度は実際にモンベル社が「モンベルアウトドアチャレンジ(MOC)(※)」によりツアーを造成し、会員向けツアーとして売り出され、これを地元業者が協力して受入れる形となった。
- 「ジャパンエコトラック登録記念 カヤック・サイクリング・トレッキングで巡る 沖縄本部半島 SEA TO SUMMIT ツアー3days」と題して募集し、定員 20 名に対し、会員及びメディア関係者が参加した。
- ツアーは、那覇空港集合の2泊3日で、1日目はフリータイムとウェルカムパーティー、2日目に SEA TO SUMMIT ツアーを実施、3日目はフリータイムであった。
- 今回のツアーコースは、広域パンフに掲載しているコースの一つである「本部半島シートウサミットルート」を踏襲する形で設定されたが、スタート地点の真喜屋運動公園が工事中であったため、屋我地の済井出海岸となった。
- 3日間とも天気恵まれなかったが、地元ガイドや参加者同士の交流でツアーを盛り上げた。

※ M.O.C.(モンベル アウトドア チャレンジ):アウトドアメーカー「モンベルグループ」が運営する会員組織「モンベルクラブ会員」向けのイベント・ツアー提供部門。

図 本部半島シートウサミットルート



出典：公式パンフレットより

表 沖縄やんばる本部半島 SEA TO SUMMIT ツアー3days 行程概要

	1日目	2日目	3日目
朝食		屋我地島内民宿	本部町内ホテル
午前	各自で那覇空港へ	【SEA TO SUMMIT ツアー】 ■カヤックツアー出発 済井出海岸～今帰仁村民の浜 ■自転車ツアー出発 今帰仁総合運動公園～	■フリータイム ・自転車レンタル ・伊江島渡航 (今回は悪天候のため伊江島渡航者はいなかった)
昼食	各自	本部町内	
午後	那覇空港集合 送迎車で移動 屋我地到着 チェックイン ■フリータイム開始 ・自転車：古宇利島 ・カヤック試乗：済井出	■自転車ツアー 本部町～嘉津宇岳駐車場 ■登山 嘉津宇岳山頂	フリータイム終了 路線バスで那覇空港へ 那覇空港 解散
夕食	ウェルカムパーティー	ホテル夕食	
宿泊	屋我地島内民宿	本部町内ホテル	

写真 沖縄やんばる本部半島 SEA TO SUMMIT ツアー



済井出海岸を出発



古宇利大橋の下を通過



自転車等ツアー



嘉津宇岳山頂

## 2)南エリア『女子スポーツ誘致プロジェクト』

### ①プロジェクト概要(企画概要)

連携プロジェクト名称	女子スポーツ誘致プロジェクト	
市町村／関連団体名	恩納村、宜野座村、金武町	
市町村／関連団体名	恩納村、宜野座村、金武町、一般社団法人恩納村観光協会、一般社団法人宜野座村観光協会、一般社団法人金武町観光協会	
代表窓口／実施体制	宜野座村観光協会	
現状の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3町村で連携してツアー造成の実績をつくる必要がある。</li> <li>・大会やセミナーなどの企画、地元への経済波及等の方法を検討する必要がある。</li> <li>・エリア内での移動や地元の受入体制の整備、合意形成・フィールド利用の共通認識が必要である。</li> </ul>	
連携プロジェクト	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度に招聘したキーパーソンとの関係を活かし、商品化するツアーの営業を行う。</li> <li>・女子旅の3村PR映像制作「(仮称)女子旅 in SOUTH やんばる」(健康・美容女子力アップツアー)</li> <li>・営業ツール「エコバック」制作</li> </ul>
	実施の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー造成、販売の仕組みづくり</li> <li>・女子スポーツのセミナー、大会を開催し、運営方法を確立する。</li> <li>・スポーツを通して、大会・セミナー、キャンプ、イベント等の設置により3町村の滞在・消費の促進を行う。</li> </ul>
検証内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3町村移動手段の確保・運営</li> <li>・受入体制の整備</li> <li>・商品化ツアー「女子旅」の旅行者需要や要求内容の確認</li> </ul>	
取組み後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3町村連絡協議会を立ち上げ、ワンストップ総合窓口を設置し、スポーツ合宿・大会誘致の受入れ、運営を行っていく。</li> </ul>	

### ②企画会議の開催経緯

#### 企画会議(1回目)

日時：平成28年10月19日(水)10:00～

場所：恩納村役場

出席：恩納村商工観光課、宜野座村観光商工課、宜野座村観光協会、金武町観光協会、北部広域市町村圏事務組合、(株)国建

内容：①エリア連携体制及び代表窓口の設置

・宜野座村観光協会

②エリア別連携プロジェクトの実施について

③観光キャラパンについて



### 企画会議(2回目)

日時：平成 28 年 12 月 15 日(木) 10:00～

場所：ネイチャーみらい館

内容：①プロモーションツールについて  
②旅行社訪問について

### 企画会議(3回目)

日時：平成 29 年 1 月 30 日(水) 17:00～

場所：宜野座村立中央公民館

出席：宜野座村観光商工課、金武町産業振興課、宜野座村観光協会、金武町観光協会、(株)国建

内容：①プロモーションツールについて

- ・ノベルティグッズ(エコバック)
- ・映像制作

②視察研修について

③専門家招聘について



### ③3町村連携体制

#### (連携体制図)

- 3町村が連携体制を築き、代表団体及び総合窓口として一般社団法人宜野座村観光協会がとりまとめを行った。

図 連絡体制図

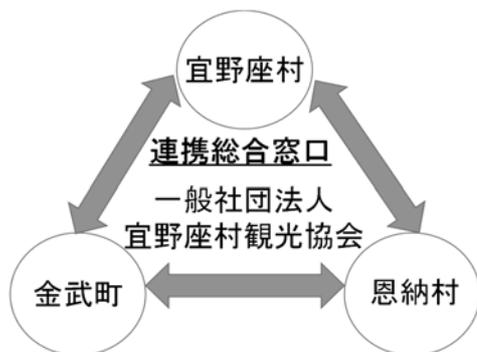


表 連携町村関連団体名

宜野座村	宜野座村 観光商工課
	(一社)宜野座村観光協会
金武町	金武町 産業振興課
	(一社)金武町観光協会
恩納村	恩納村 商工観光課
	(一社)恩納村観光協会

### ④取組み内容

#### a. PR ツール制作

- 南エリア3村を PR するためのエコバックを制作した。
- 3村連携の女子旅を紹介するために、PR 映像を制作した。

表 PR ツール制作概要

制作物	エコバッグ、PR 映像
制作数	エコバッグ：500 部、映像：1 本

図 エコバッグデザイン



写真 PR映像(DAY1:恩納村)

